

ヒグマはヨーロッパでは駆除によって激減，北海道では1970年代に毎年500頭が捕獲され，減らないと信じられていた(犬飼 1967)。本当か？

スウェーデンのヒグマの分布の歴史的变化(1600～1954)

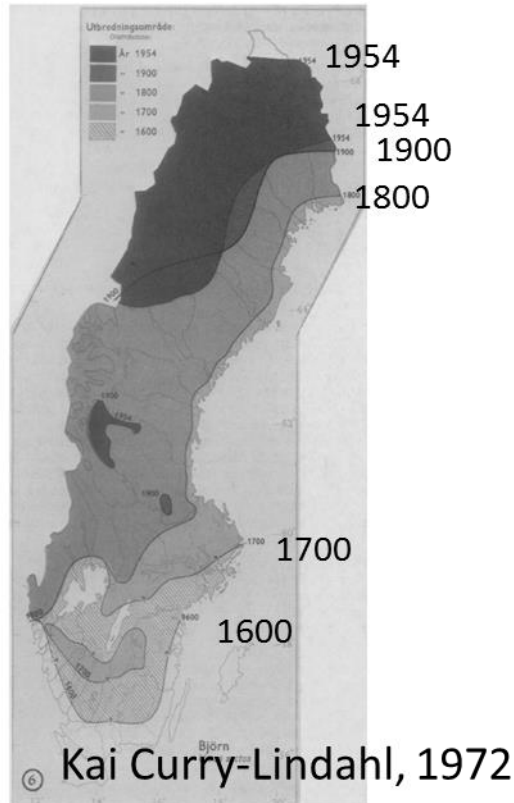
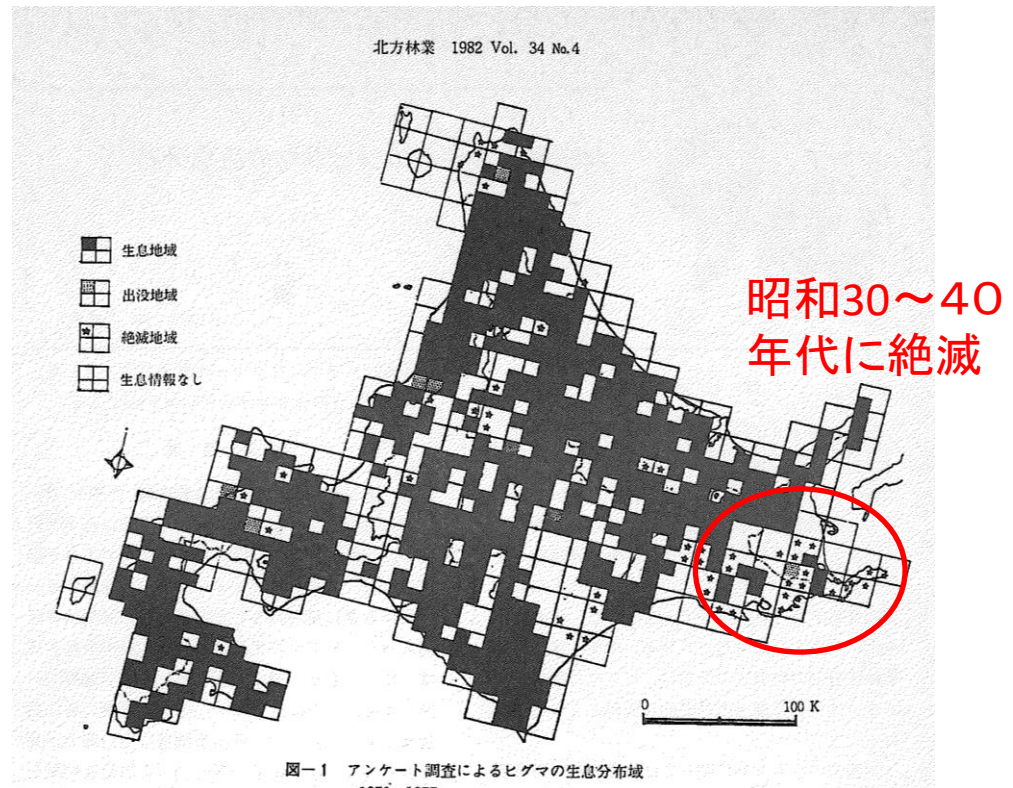


Fig. 1 Breeding distribution of the brown bear (*Ursus arctos* L.) in Sweden 1600-1954. After Curry-Lindahl (1957).

北海道のヒグマの分布(1970-77)

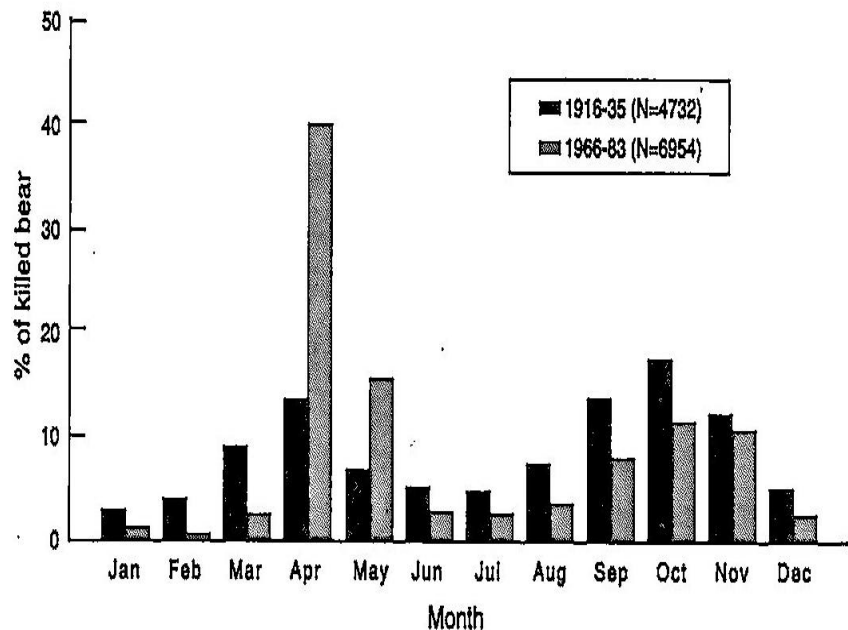
文部省科研費(代表 阿部永)



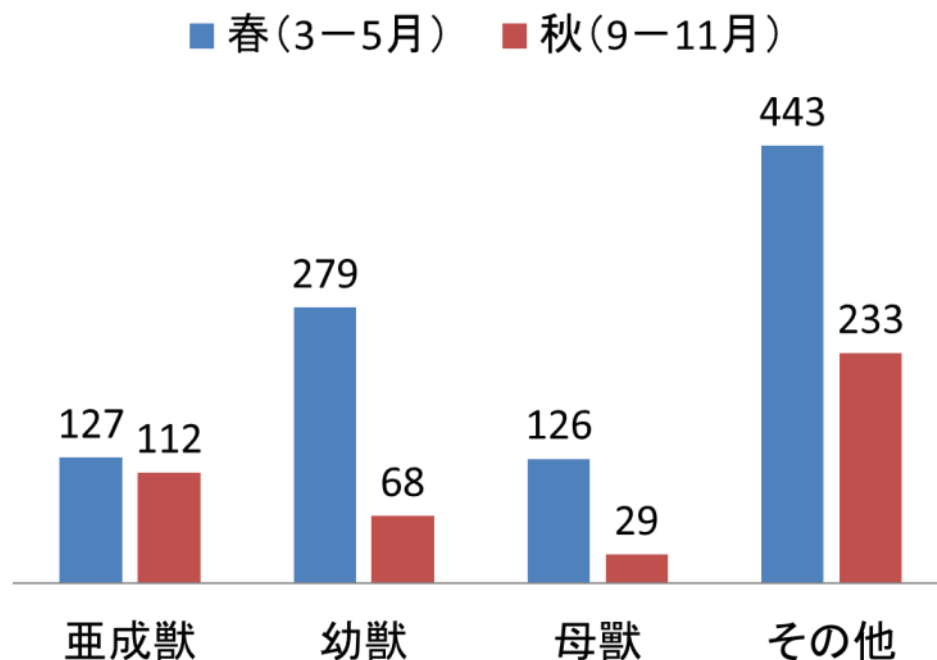
卒論 エゾヒグマの生息状況と生息分布
 梶光一(1982)北方林業 34:108-112

春グマ駆除期(1966-89)に春の捕獲数の増加とともに、親子連れれの捕獲数が急増

明治期(1916-35)と春グマ駆除期(1966-83)の月別捕獲数の比較



季節別の捕獲個体群の構成(1972-75)

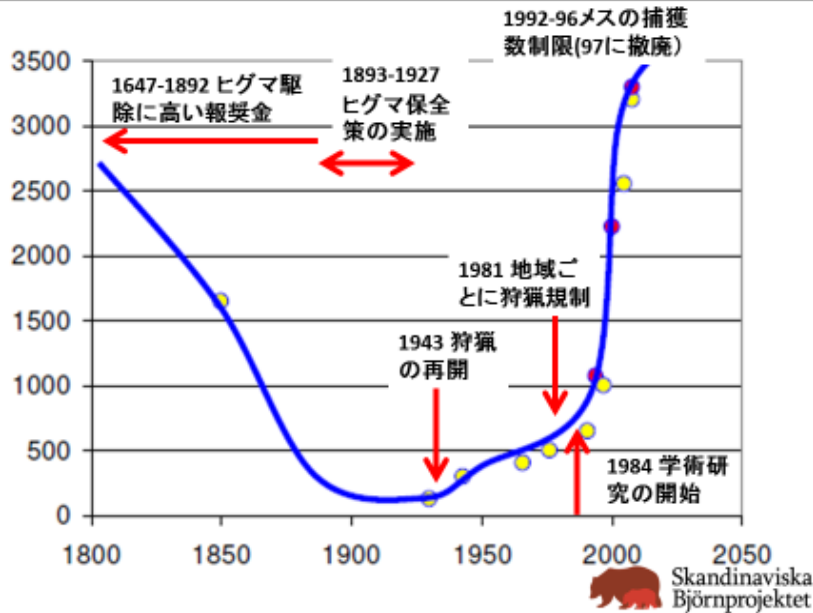


Kaji, Mano (1996) J. Wildl. Res

(梶 1982)

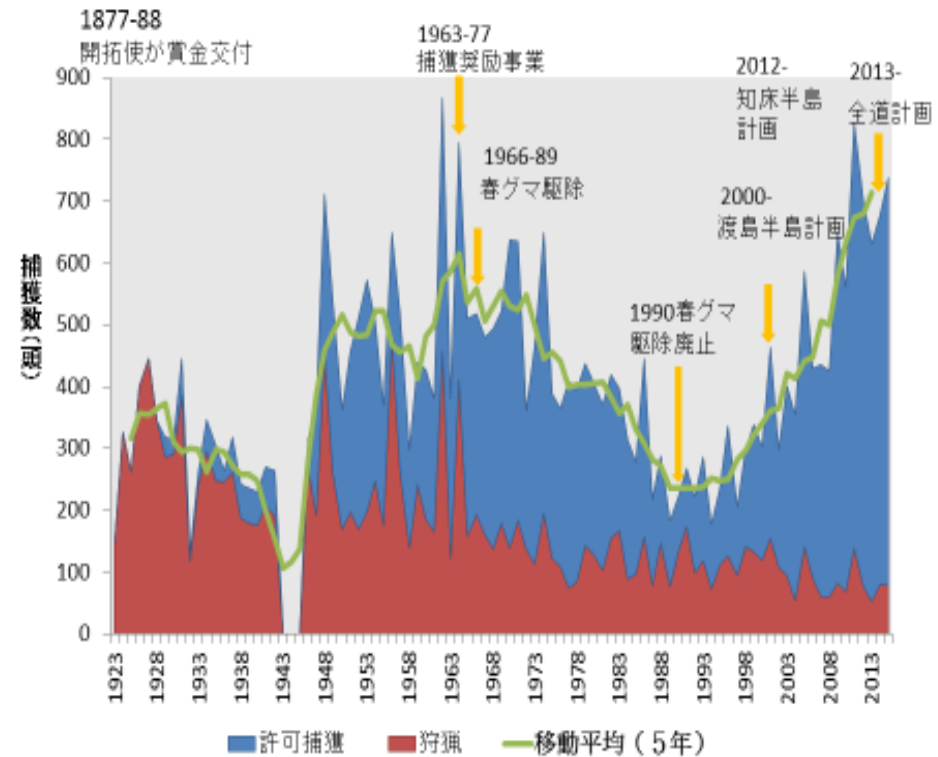
スκανジナビアと北海道のヒグマと人の歴史 (乱獲→保護→管理)がパラレルに進行

スウェーデンのヒグマの推定個体数と管理の変遷(1800-2008年)



Jon Swenson 大型獣の管理シンポ
@TUAT 2011.1.24

ヒグマの駆除から保全管理への展開



駆除から保護, 管理のパラダイムの変化は, 社会経済の変化と科学的な知見の蓄積によってもたらされた